

中・大規模業務用施設様向け

ひらめきから50年、次の50年もやまいか。

ロスナイ

50th
ANNIVERSARY



換気的重要性と 業務用ロスナイ（天井埋込形） DCマイコンシリーズのご提案



nakatsugawa
works



三菱電機株式会社 中津川製作所 営業部

1. 換気的重要性

政府の注意喚起

厚生労働省は3密の一つ「密閉」対策として「換気」を励行。

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をおねがいします

3つの密を避けるための手引き!

- 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、咳エチケット、手指衛生等に加え、「**3つの密(密閉・密集・密接)**」を避けてください。
- 3つの密が重ならない場合でも、リスクを低減するため、できる限り「**ゼロ密**」を目指しましょう。
- 屋外でも、密集・密接には、要注意。人混みに近づいたり、大きな声で話しかけることなどは避けましょう。



厚生労働省フリーダイヤル

厚生省 コロナ

検索

0120-565653



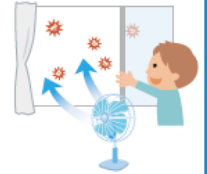
新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をおねがいします

① 「密閉」空間にしないよう、こまめな換気を!

「部屋が広ければ大丈夫」、「狭い部屋は危険」というものではありません。カギは「換気の種類」です。WHOも、空気感染を起こす「結核・はしかの拡散」と「換気回数の少なさ」の関連を認めています。

窓がある場合

- ・ 風の流れができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間程度、全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。
- ・ 窓が1つしかない場合でも、入口のドアを開ければ、窓とドアの間に空気が流れます。扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば、換気の効果はさらに上がります。



機械換気がある場合

- ・ 窓がない施設でも、建物の施設管理者は、法令により感染症を防止するために合理的な換気量を保つような維持管理に努めるよう定められています。
(注)ビル管理法により、不特定多数の方が利用する施設では、空気環境の調整により、一人当たり換気量(毎時約30m³)を確保するよう努めなければなりません。
- ・ したがって、地下や窓のない高所の施設であっても、換気設備(業務用エアコン等)によって換気されていることが通常のため、過剰に心配することはありません。
- ・ しかし油断は禁物です。換気量をさらに増やすことは予防に有効です。冷暖房効率は悪くなりますが、窓やドアを開けたり、換気設備の外気取入れ量を増やしましょう。また、一部屋当たりの人数を減らしましょう。
- ・ 通常家庭用エアコンは、空気を循環させるだけで、換気を行っていません。別途、換気を確認してください。また、一般的な空気清浄機は、通過する空気量が換気量に比べて少ないことから、新型コロナウイルス対策への効果は不明です。

新型コロナウイルス感染症厚生労働省対策本部ではこの見解を踏まえ、「**推奨される換気の方法**」、「**換気にあたっての留意点**」発表

推奨される換気の方法

① 機械換気(空気調和設備、機械換気設備)による方法

- ビル管理法における特定建築物に該当する商業施設等については、ビル管理法に基づく空気環境の調整に関する基準が満たされていることを確認し、満たされていない場合、換気設備の清掃、整備等の維持管理を適切に行うこと。
※建築物衛生法
- 特定建築物に該当しない商業施設等においても、ビル管理法の考え方に基づく必要換気量 **(一人あたり毎時30m³)** が確保できていることを確認すること。必要換気量が足りない場合は、**一部屋あたりの在室人数を減らす**ことで、一人あたりの必要換気量を確保することも可能であること。

厚生労働省は
建築基準法『**毎時20m³**』と
比較して多い換気風量を推奨

② 窓の開放による方法

- 換気回数※を毎時2回以上（30分に一回以上、数分間程度、窓を全開する。）とすること。
※ 換気回数とは、部屋の空気がすべて外気と入れ替わる回数をいう。
- 空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の壁の窓を開放すること。窓が一つしかない場合は、ドアを開けること。

換気に当たっての留意点

① 特定建築物に該当する場合

- 特定建築物※¹に該当する商業施設等の管理権原者は、ビル管理法に基づく空気環境の調整に関する基準に従って当該建築物を維持管理しなければなりません。
- 基準を満たしていない場合※²は、建築物環境衛生管理技術者の意見を尊重して適切な是正措置を講じ、当該建築物が基準を満たすように維持管理しなければなりません。

※¹ ビル管理法における特定建築物とは、興行場、百貨店、集会場、遊技場、店舗等の用途に供される延べ床面積が3,000m²以上の建築物であって、多数の者が使用・利用するものをいいます。

※² 近年、二酸化炭素の含有率の基準を満たしていない特定建築物が多数報告されています。改めて換気設備の点検を行うなど、適切な維持管理を行ってください。

② 特定建築物に該当しない場合

- 特定建築物に該当しない商業施設等の管理権原者についても、ビル管理法に基づく空気環境の調整に関する基準に従って当該建築物の維持管理するように努めなければならないとされています。
- これを踏まえ、機械換気による場合、換気設備を設計した者や換気の専門業者に依頼し、換気量がどの程度あるかを確認し、一人あたりの必要換気量が確保できるよう、部屋の内部の利用者数の上限を把握するよう努めなければなりません。

2. 必要換気風量の考え方の変化

増加傾向にある必要換気風量

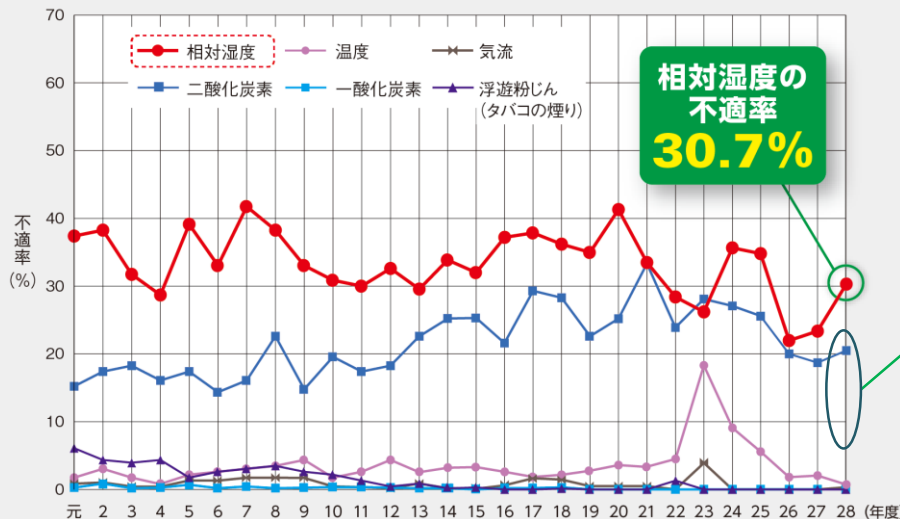
厚労省が推奨する必要換気量は建築物衛生法（下表）基準値をベースに同管理基準を満たすために必要な換気風量が「**毎時30m³**」という考えに基づく

◆空気環境維持の管理基準

浮遊粉塵量	空気1m ³ につき0.15mg以下
CO含有率	10ppm（厚生労働省令で定める特別の事情がある建物にあっては厚生労働省令で定める数値）以下。
CO ₂ 含有率	1,000ppm以下。
温度	1)17℃～28℃ 2)室内温度を外気温度より低くするときは、その差を著しくしないこと。
相対湿度	40%～70%
気流	0.5m/s以下
ホルムアルデヒドの量	空気1m ³ につき0.1mg/m ³ （0.08ppm）以下

建築物衛生法では
空気環境維持の管理基準
を規定

◆空気環境管理基準項目不適率の経年変化



CO₂濃度の
不適率
約20%

湿度/CO₂濃度の
不適率が高く
環境改善が必要

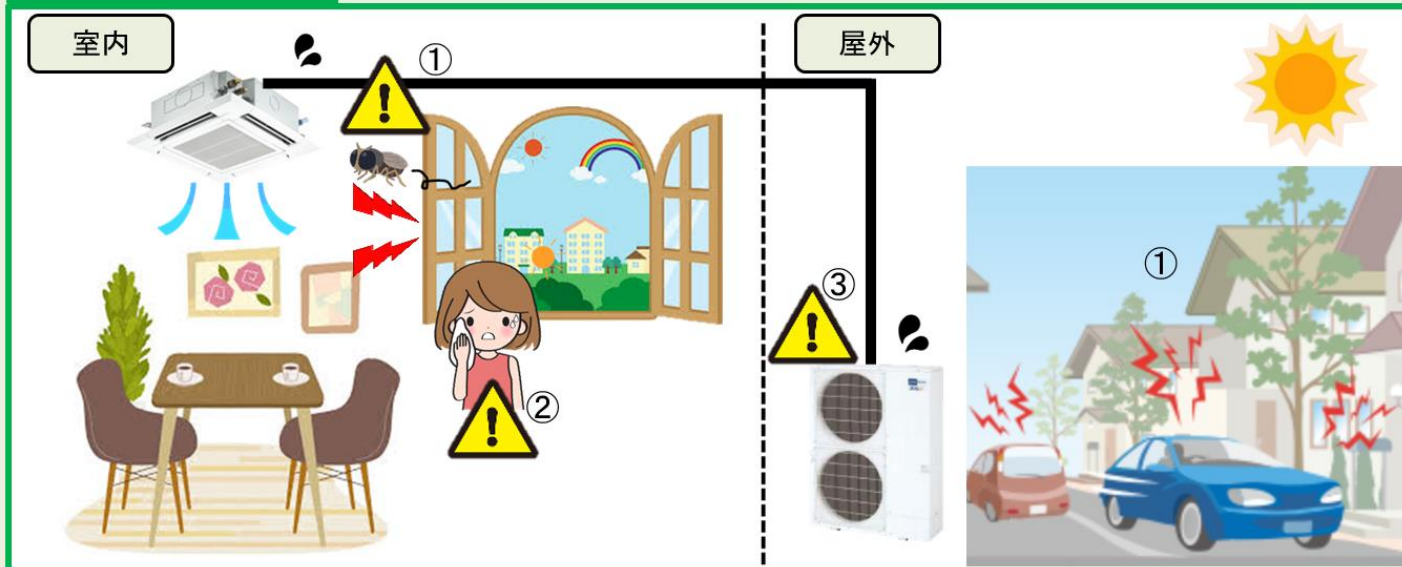
※不適率：調査建築物の中で管理基準を満たさない建物の割合

今後、換気的重要性、
必要換気風量は
高まる傾向

夏期に向けて直面する課題

窓開けによる換気の場合、室温の上昇・空調エネルギーロスによる空調機器の電気代ロス・虫の侵入等が懸念

窓開け換気だと...



① 塵やホコリ、虫の侵入や騒音が気になる。

② 室温が上昇してしまう。

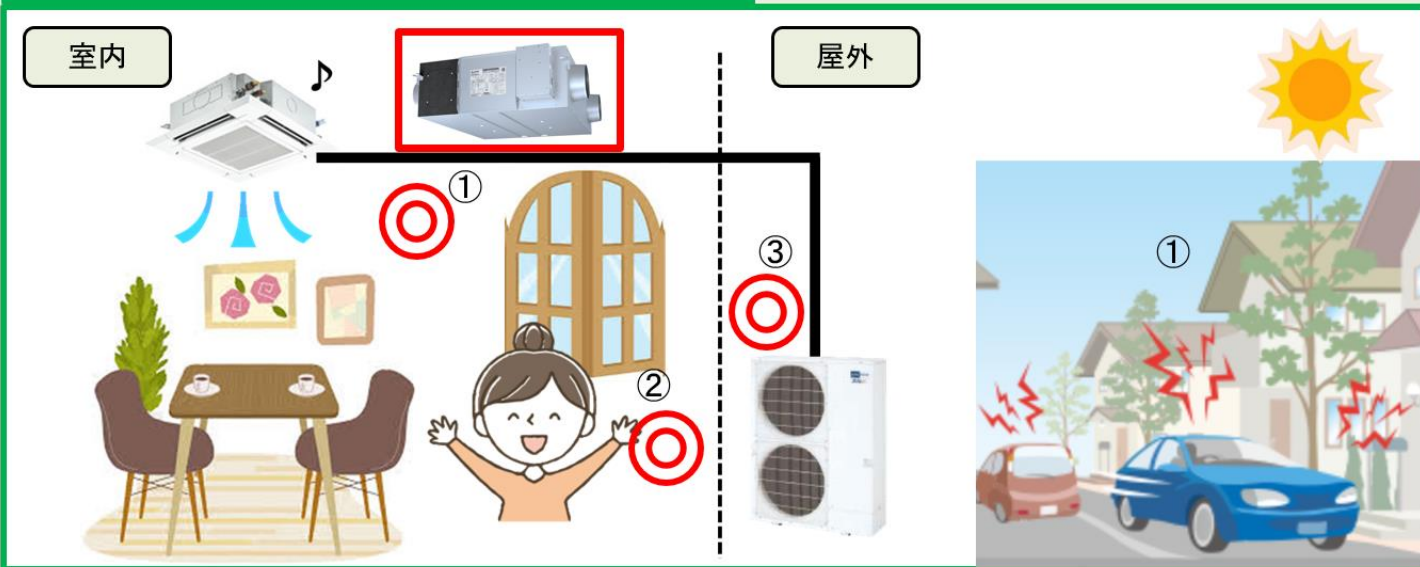
③ エネルギーのロスが発生してしまう。

窓開け換気だと、**塵やホコリ、虫の侵入や騒音**が気になります。また、せっかく空調の効いている部屋に**熱気**が侵入して**室温が上昇**する上、**エネルギーのロス**も発生してしまいます。

店舗の課題に対してロスナイ導入によるメリット

ロスナイを導入するとロスナイの全熱交換の特性により室温の上昇や空調機のエネルギーロスを抑制。また虫の侵入や屋外の騒音の侵入も抑制します。

高機能換気設備 **ロスナイ** を導入すると！



① 塵やホコリ、虫の侵入や騒音を防止！

② 室温の上昇を抑制！

③ エネルギーのロスを抑制！

ロスナイで換気をすれば、窓を閉めても換気できます。塵やホコリ、虫、騒音などはもちろん、熱気の侵入も防止。熱交換換気により、エネルギーロスも抑制できます。



厚労省が推奨する換気についての考え方

- ・一人当たり毎時30m³の必要換気量を確保した確実な換気
- ・ビル管理法に基づく空気環境に関する基準を満たす換気設計
- ・基準を満たしていない場合は換気設備の清掃・設備等の維持管理

<換気扇に求められる
基本スペック>

<求められる理由>

<DCマイコンタイプ
のスペック>

大風量
高機外静圧

距離が長く複雑な経路のダクトでも確実な換気風量を確保するためには、**大風量・高機外静圧機種**が必要

業界No.1機外静圧
特強2ノッチ

使用に伴う圧損
増加に関わらず
定風量を確保

フィルター圧損増に伴い風量換気風量が低下し、「確実な換気」が確保できない

定風量制御

給排気風量
バランスの最適
調整

給排気風量差異により空気圧バランスが崩れ「確実な換気」が確保できない

風量多段階制御

換気の重要性の高まりとDCマイコン機種の特長



DCマイコンの特長		特長
(1)-1	大風量 業界No.1 高機外静圧	高効率のDCブラシレスモーター搭載により、大風量&業界No.1の高機外静圧を実現
(1)-2	特強2ノッチ	従来のACモーターシリーズと比較してワンランク上機種の強ノッチと同等機外静圧を発揮
(2)	定風量制御	運転中の圧力損失の増加に追随してモーター回転数を変化させ、一定換気風量を確保。
(3)	風量多段階制御	強・弱・微弱の各ノッチの換気風量レベルを給排気それぞれ最大11段階から選択。

※JIS B 8628:2017 に規定された試験方法において、風量650m³/h機種の強ノッチ運転時の機外静圧。2020年2月28日時点当社調べ

[プラスアルファの特長]

(4)	人感・CO2センサー連動	在室人数の増減に伴って換気風量を多段階に変化させ空調負荷を抑制し、省エネ効果向上
(5)	業界No.1 有効換気量率	全機種有効換気量率92%を達成した高い換気効率を実現

換気の重要性がクローズアップされるなか、DCマイコンであれば高いレベルで「**確実な換気**」を実現。同時に各種センサーとの連動により**高い省エネ効果**を発揮。

4. 必要換気風量の増加と新型DCマイコンシリーズ

ポイント(1)

選定機種をワンランク上げなくても余裕のある換気風量を確保し、設計上の必要換気風量アップに対応

(1) 大風量・高機外静圧

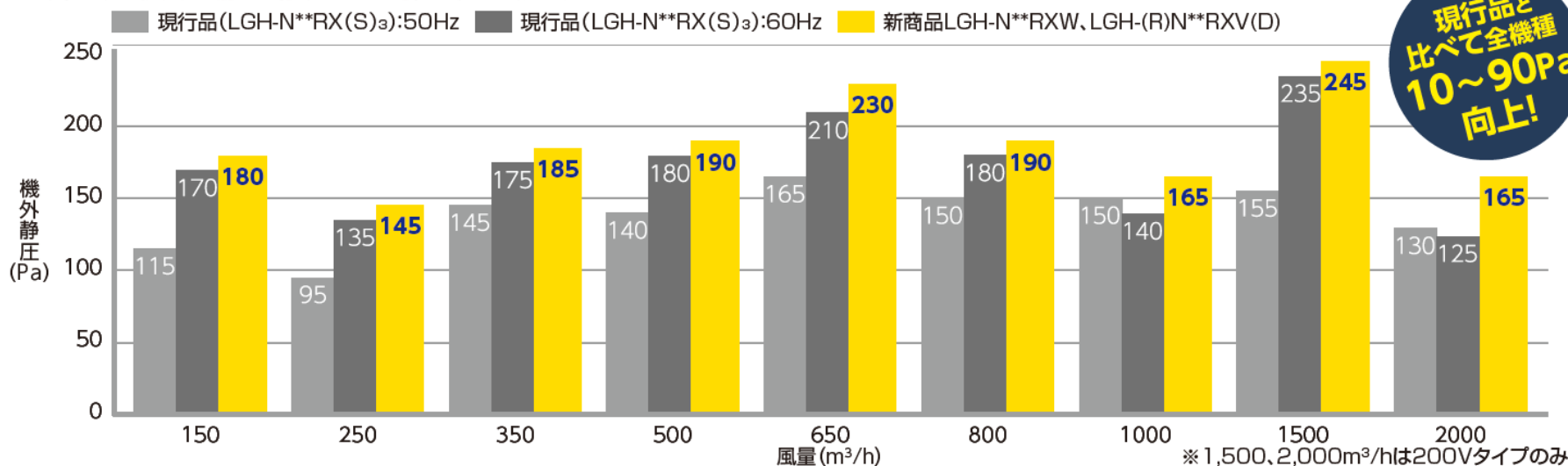
換気風量を確保するには**高機外静圧機種**が断然有利。

距離が長く複雑な経路のダクトでも送風能力を確保、換気風量を確保します。



新型DCマイコンは高効率のDCブラシレスモーターの搭載により、**機外静圧が現行品と比較して全機種10~90Pa向上し大風量化を実現、換気送風性能が向上。**

■天井埋込形機外静圧(強ノッチ時)新旧比較表



現行品と
比べて全機種
10~90Pa
向上!

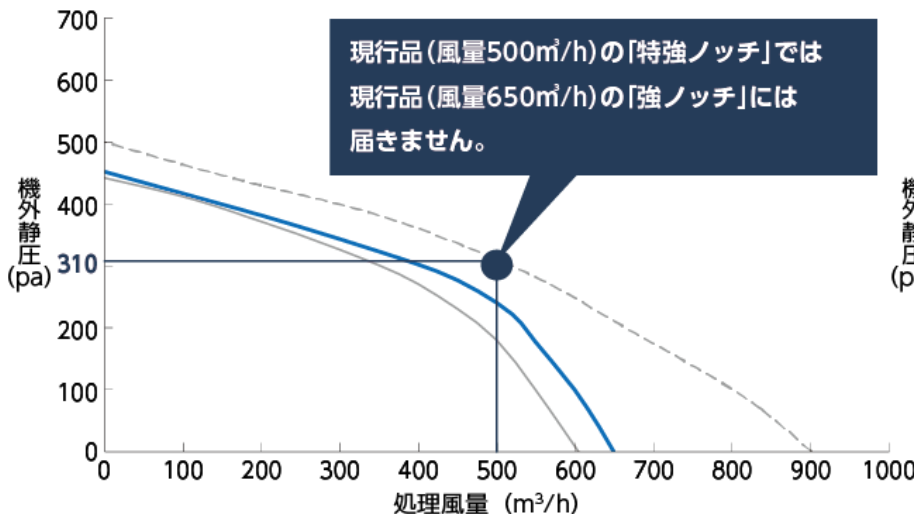
ポイント(1)

選定機種をワンランク上げなくても余裕のある換気風量を確保し、設計上の必要換気風量アップに対応

(1)-2 特強2ノッチ

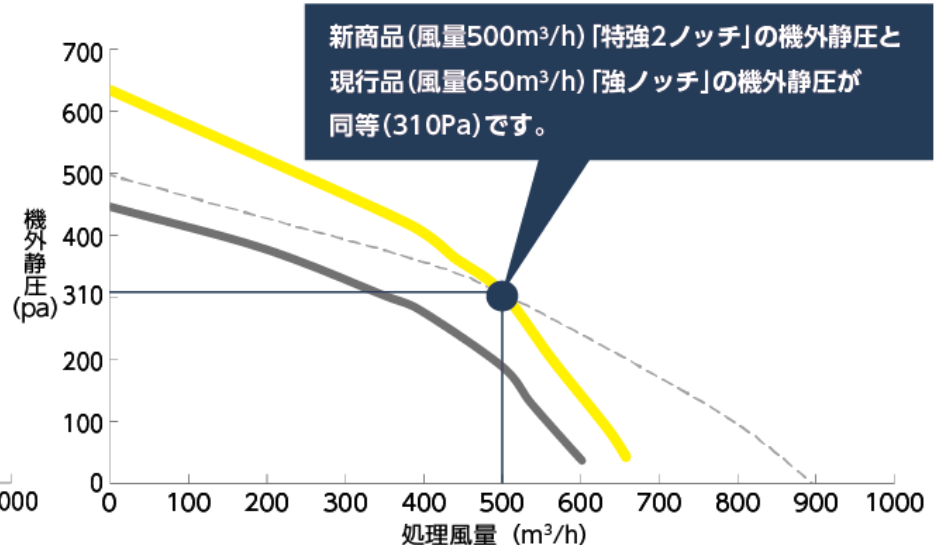
特強2ノッチで運転すれば、従来のACモーターシリーズのワンランク上機種の強ノッチと同等の機外静圧を発揮。急な換気風量増加のニーズへの対応力の向上に加えて、ACモーター機種と比較してワンランク下機種の選定が可能

— 現行品 LGH-N50RX₃特強ノッチ(60Hz)
— 現行品 LGH-N50RX₃強ノッチ(60Hz) - - - 現行品 LGH-N65RX₃強ノッチ(60Hz)



※2: 特強2ノッチは350m³/h~800m³/hタイプで対応
 ※3: (例) 新機種の500m³/hタイプ「特強2ノッチ」の機外静圧(50/60Hz)が現行機種の650m³/hタイプ「強ノッチ」の500m³/h風量時の機外静圧(50/60Hz)と同等。但し、騒音値はアップします

— 新商品 LGH-N50RXW特強2ノッチ(50/60Hz)
— 新商品 LGH-N50RXW強ノッチ(50/60Hz) - - - 現行品 LGH-N65RX₃強ノッチ(60Hz)



現行品 LGH-N50RX₃(100V 60Hz) ロスナイ換気時 強ノッチ 33dB、特強ノッチ 35dB
 現行品 LGH-N65RX₃(100V 60Hz) ロスナイ換気時 強ノッチ 35dB
 新商品 LGH-N50RXW(100V/単相200V 50/60Hz) ロスナイ換気時 強ノッチ 33.5dB、特強2ノッチ 37dB

ポイント(2)

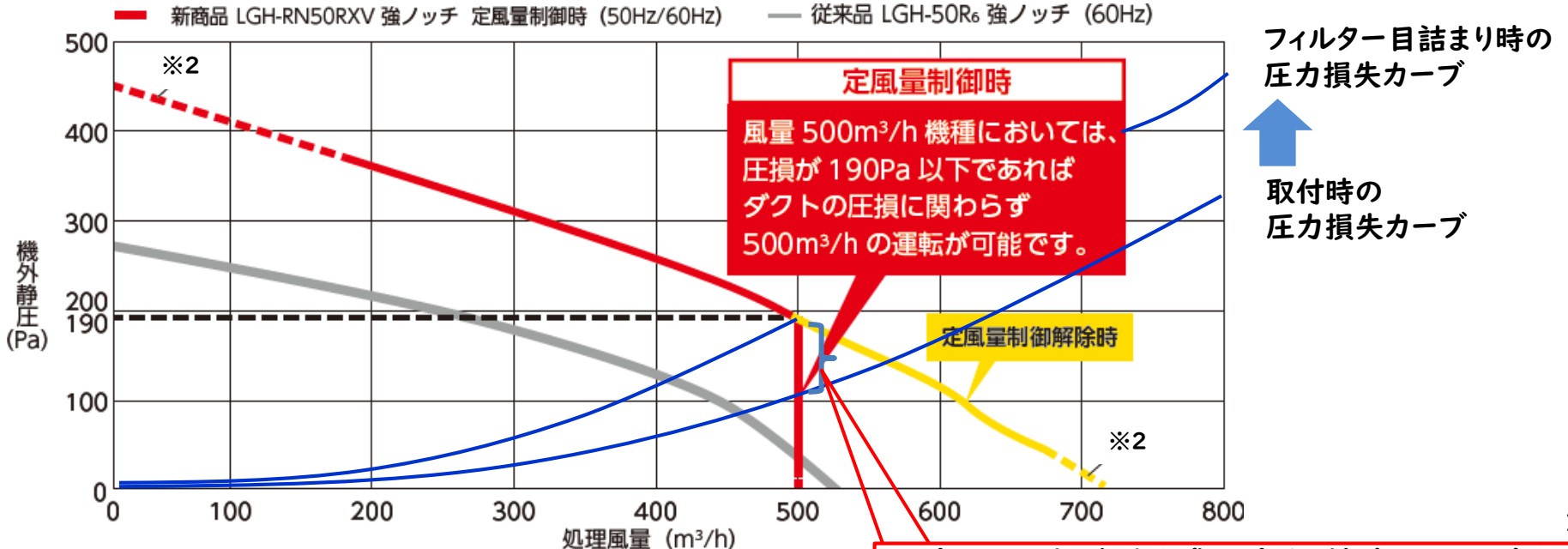
フィルター圧損等、運転に伴い増加する圧力損失に対して換気風量の低下を抑制し、**設計時換気風量を確保**

(2) 定風量制御

圧力損失の増加に対して、一定換気風量を確保^{※1}。これによりフィルターの目詰まり時にも換気風量の低下を抑制。また、給気側・排気側のフィルター圧損が異なるケースでも定風量制御により給排気の風量バランスを保ちます。

※1: 強ノッチ・弱ノッチ運転時に設定可能。また、ダクトの圧力損失が、風量の自動制御の可能範囲内であることが条件(詳細は各機種種の風量-静圧特性線図を参照)

■ ロスナイ<天井埋込形>の場合



定風量制御領域=定格換気風量確保

ポイント(3)

居室空間内空気圧バランスのきめ細かい設定ニーズへの対応力アップ

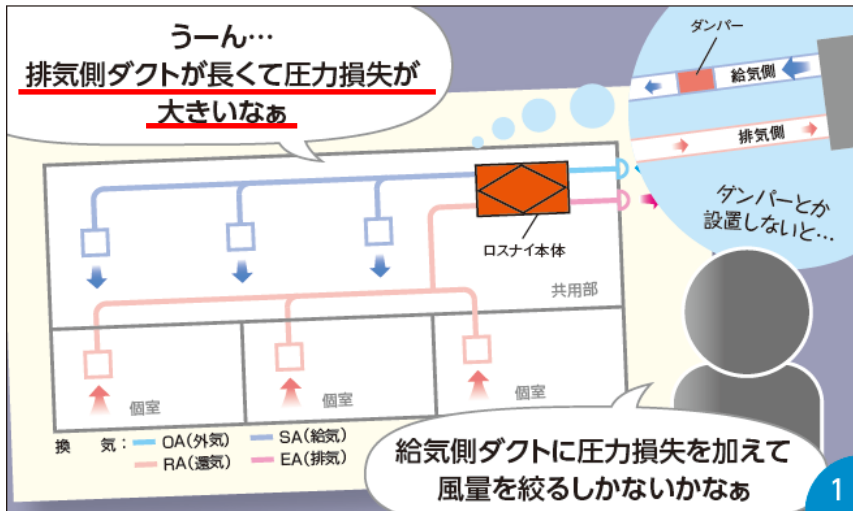
(3) 風量多段階制御

強・弱・微弱各ノッチの換気風量レベル最大11段階※1から選択。
給気・排気それぞれの換気風量を居室空間のニーズに合わせて細かく設定
ができ、細かい空気圧バランスの設定が可能。

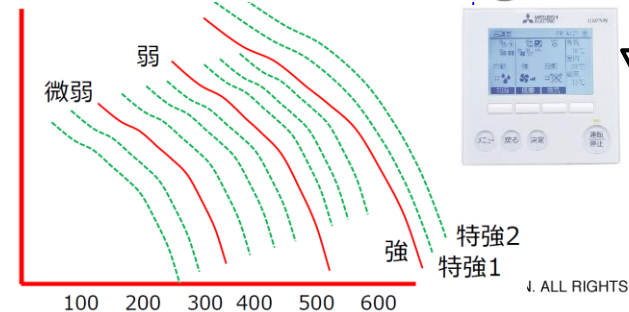
※1従来機種では給気・排気それぞれ2パターン(強・弱ノッチ)からの選択が可能

(例) 給・排のダクトの長さが異なり給排風量が合わないケース

従来の対応



DCマイコンシリーズの対応



リモコンから設定変更が可能

従来のようにダンパー設置やブースターファンの設置検討は不要

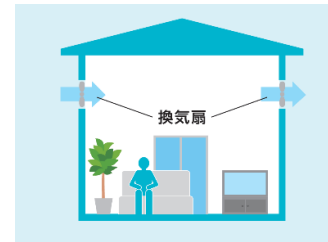
ポイント(3)

居室空間内空気圧バランスのきめ細かい設定ニーズへの対応力アップ

給・排気風量を個別に細かく設定できることにより、特定居室のウィルス拡散や侵入抑制等、以下ケースでの対応力アップ

① 給気 = 排気

居室空間内の空気圧バランスを維持し、確実に換気したい



② 給気 > 排気

特定居室へ外部からのウィルス等の侵入を抑制したい



③ 給気 < 排気

特定居室から外部へのウィルス拡散を抑制したい



6. 必要換気風量増加と省エネ性の確保の両立

ポイント(4)

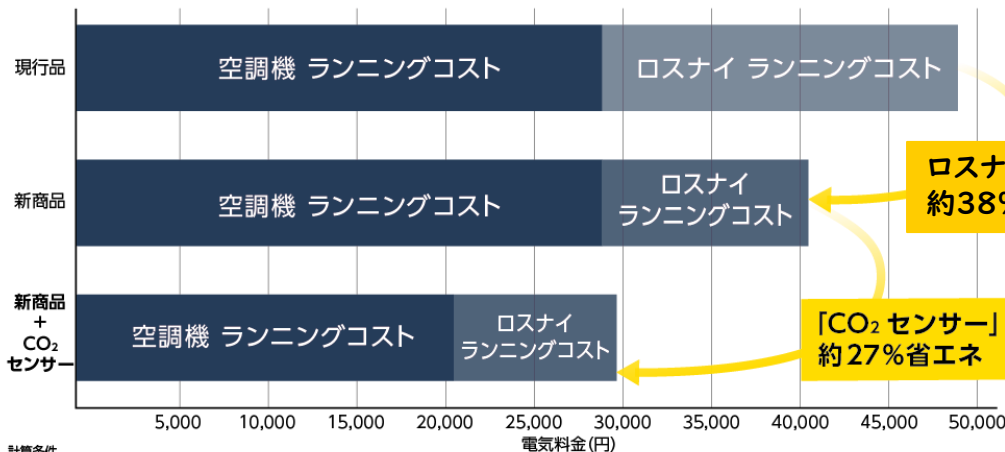
設計上の必要換気風量増に対し、(人感・CO₂)センサーとの連動により「密ではない」ケースでは**換気風量調整**による省エネ運転を実現

①CO₂濃度に応じた風量多段階制御

DCブラシレスモーターの搭載による、ロスナイ単体の省エネ効果(38%削減)^{※1}に加え、別売部材「CO₂センサー」の装着により約27%^{※2}省エネです。

「CO₂センサー」使用時はジーニアスリモコン(PGL-62DR)が必要です

■ロスナイ〈天井埋込形〉の場合



計算条件
 ・対象室体積 243 m³ (≒9.5×9.5×2.7m) ・最大在室人数 12名 (標準人数を5 m³/人で計算した18名に対し、在室率67%の在室率) ・季節日数と温湿度条件 夏季3.5か月(平日75日、休日32日) 冬季3か月(平日60日、休日30日)
 ・機器情報 空調機 暖房 COP3.6、冷房 COP3.19 ロスナイ LGHN50RXW×1台・換気回数 2.1[回/h] (最大ノッチ時)・目標 CO₂濃度設定 1000ppm ・電気料金 27[円/kWh]
 ・JIS B 8628: 2017 に規定された全熱交換効率測定時の室内空気条件下において当社試算。

※1: JIS B 8628:2017に規定された試験方法において500m³/hタイプの強ノッチ運転時(60Hz地区)

※2: 「CO₂センサー」未装着時との比較

今後、テレワークやサテライト
オフィスの浸透で
オフィスワーカーの
在室人員減が想定



在室人数に応じた風量可変は
一層効果を発揮!!

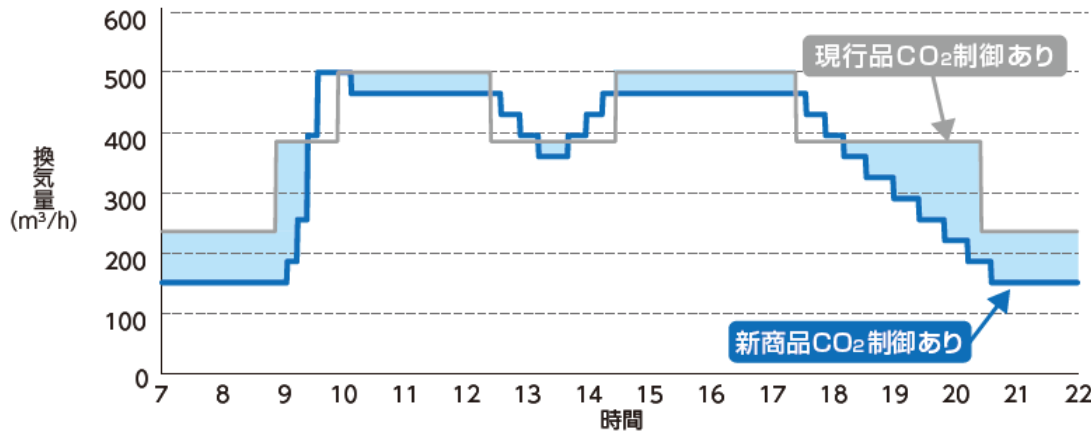
6. 必要換気風量増加と省エネ性の確保の両立

ポイント(4)

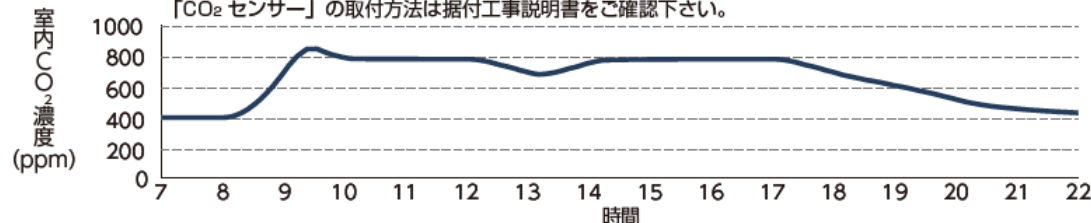
設計上の必要換気風量増に対し、(人感・CO₂)センサーとの連動により「密ではない」ケースでは**換気風量調整**による省エネ運転を実現

室内CO₂濃度に応じて外気導入量を最小限にし、空調負荷を抑えることで省エネを実現します。

■換気量と室内CO₂濃度変化(シミュレーション結果)



※ 当社指定別売部品「CO₂センサー」装着時(目標CO₂濃度1,000ppm設定時)。
目標CO₂濃度は800/1,000/1,400ppmから選択可能。
「CO₂センサー」使用時はシーアスリモコン(PGL-62DR)が必要です。
「CO₂センサー」の取付方法は据付工事説明書をご確認下さい。



■室内外空気条件 新 JIS 交換効率測定空気条件

	夏季		冬季	
	35℃	75.3%	5℃	71.9%
OA	27℃	52.8%	20℃	58.9%
RA				

■時間と空調・換気の動作の条件

時間帯	空調機	換気(現行品)		換気(新商品)	
		CO ₂ センサー装着時			
8:00~20:00	運転	CO ₂ 濃度により風量可変	CO ₂ 濃度により風量可変	CO ₂ 濃度により風量可変	CO ₂ 濃度により風量可変
20:00~8:00	停止	(3段階、自動学習機能OFF)	(3段階、自動学習機能OFF)	(11段階)	(11段階)

CO₂センサーを用いて居室内CO₂濃度に応じて風量レベルを**11段階から自動可変**。ロスナイと空調機を合わせたランニングコストは、現行品※1のCO₂センサー装着時と比較して約**16%※2**省エネです。

※1 新商品(「CO₂センサー」装着時)は未装着時と比べて約27%省エネ(前ページの通り)
※2 現行品は「CO₂センサー」の自動学習機能ONです

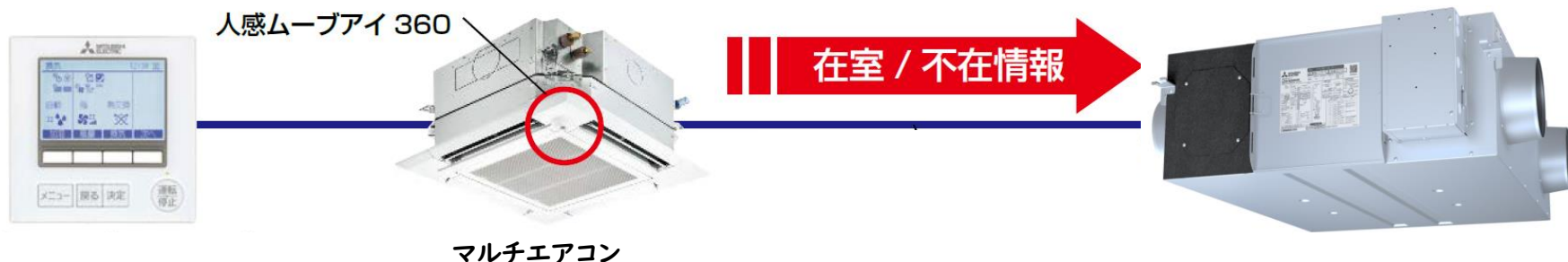
ポイント(4)

設計上の必要換気風量増に対し、(人感・CO2)センサーとの連動により「密ではない」ケースでは**換気風量調整**による省エネ運転を実現

②空調機の人感ムーブアイとの連動

当社店舗用エアコンやビル用マルチエアコンの室内機に搭載可能な人感センサー「人感ムーブアイ360」との連動により、人の在室/不在情報をもとに換気風量を自動制御します。人の不在時はロスナイの風量を自動で微弱ノッチに切り替えることで省エネ換気を実現します。

■システム(イメージ)



- ※スリムエアコン 4方向天井カセット形〈ファインパワーカセット〉、2方向天井カセット形、1方向天井カセット形
マルチエアコン 天井カセット形4方向吹出し〈ファインパワーカセット〉デラックスタイプ、天井カセット形2方向吹出しの人感ムーブアイセンサーパネル接続時。
対象機種の詳細はビル用マルチエアコン及び店舗用ミスタースリムカタログをご確認ください
- ※人感ムーブアイ360の在室/不在情報に応じた換気風量制御はロスナイ本体回路基板の機能設定が必要。マルチエアコン停止時は、本機能は動きません。
- ※3.5m以上では人を検知しにくくなる場合があります。
- ※高さ1.1m(椅子に着座を想定)の場合における人検知範囲。
- ※天井埋込形(LGH-N**RXW、LGH-(R)N**RXV(D))は、微弱運転制御への切替時間を10分間~60分間まで10分単位で変更できます。
- ※マルチエアコン「不在自動停止モード」設定時、マルチエアコンが自動停止した場合は、ロスナイも運転停止します。

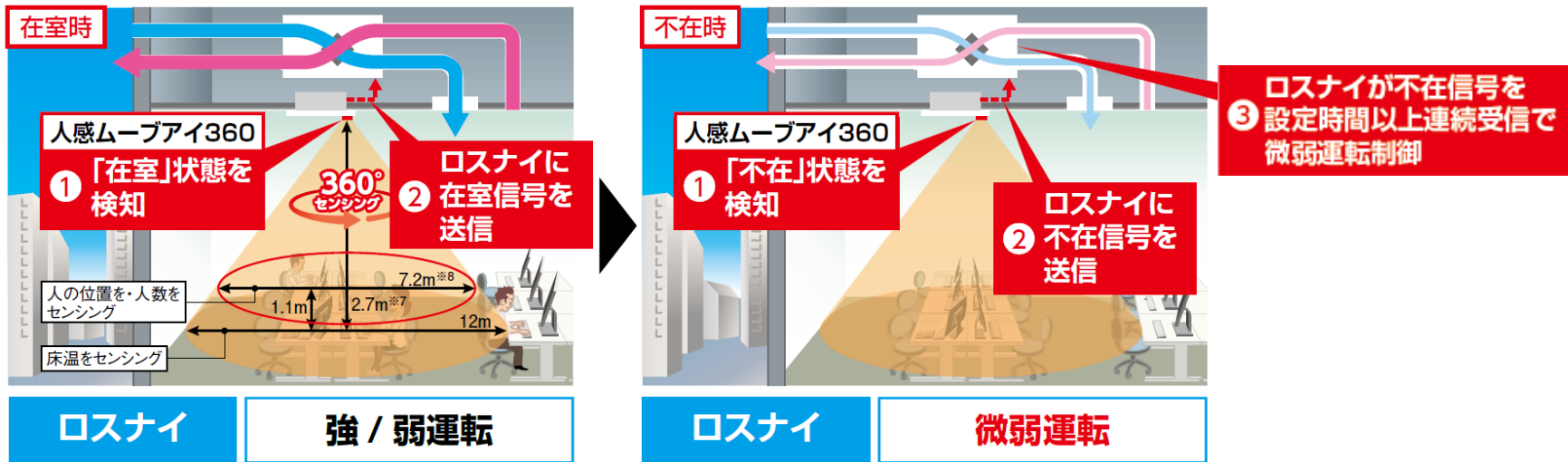
6. 必要換気風量増加と省エネ性の確保の両立

ポイント(4)

設計上の必要換気風量増に対し、(人感・CO2)センサーとの連動により「密ではない」ケースでケースでは**換気風量調整**による省エネ運転を実現

②空調機の人感ムーブアイとの連動

■在室状態によるロスナイの風量変化



不在時は、ロスナイの設定風量に関わらず、「**微弱**」風量に切り替わる制御で省エネ換気を実施します。

微弱運転制御への切替時間を10分間～60分間まで10分単位で変更できます。

7. 全熱交換器の有効換気量率と新JIS規格対応

ポイント(5)

2017年に改正された全熱交換器に関するJIS規格の厳格化にも対応し、
業界No.1の有効換気量率を達成



①JIS規格の改正

全熱交換器の国際規格 (ISO 16494、2014年) の制定に伴い、日本でもJIS規格が国際規格に準拠するよう見直しされ改正されました。

全熱交換器の
国際規格が
2014年に制定
(ISO 16494)

**JIS規格の
改正**
(JIS B8628:2017)

■JIS規格 新旧比較 (一部抜粋)

項目		旧JIS (JIS B8628:2003)	新JIS (JIS B8628:2017)
測定方法	①風量	静圧条件は任意	静圧条件に規定あり
	②全熱交換効率 (測定時の温湿度条件)	〔 乾球温度:基準値±1℃ 湿球温度:基準値±2℃ 〕	〔 乾球温度:基準値±0.3℃ 湿球温度:基準値±0.2℃ 〕
		製品の〈内部漏れ〉のみ測定対象	製品の〈内部漏れ+外部漏れ〉が測定対象
仕様書への表記	③有効換気量率	なし	あり (仕様書表示値以上)

★有効換気量率★

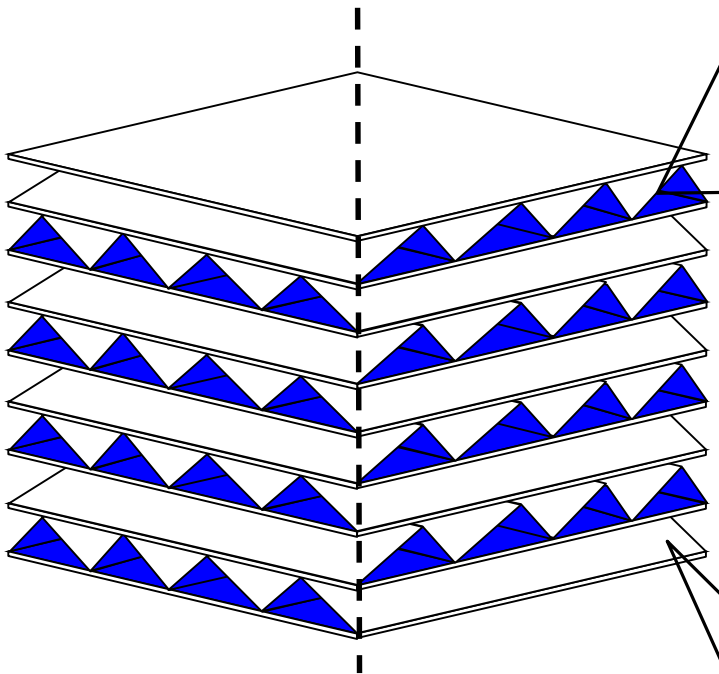
有効換気量とは製品の供給する給気 (SA) の量のうち外気 (OA) に由来する部分、と定義されており、有効換気量率が高いほど外気 (OA) に由来しない量 (排気から給気への戻り) が少ない (=換気効率が高い) と言える。19

ポイント(5)

2017年に改正された全熱交換器に関するJIS規格の厳格化にも対応し、
業界No.1の有効換気量率を達成

② 新型コロナウイルスの排気から給気への移行<当社見解>

ロスナイエレメントの構造



1. 排気から給気へのコロナウイルス透過の可能性

⇒ロスナイエレメントに対し模擬ウイルス
大腸菌ファージ※(φ×174、大きさ約20nm)
で排気から給気への移行試験を実施、
エレメントを透過しないことを確認済。

但し、ロスナイ製品の給気と排気の間隙間はゼロではないため若干排気が給気に混じることが考えられますが、同時に新鮮な外気も取り込むためコロナウイルスを増やすことにはなりません

※既知のウイルスの中で最も小さいもののひとつ

2. ロスナイ内部でのコロナウイルスの増殖リスク

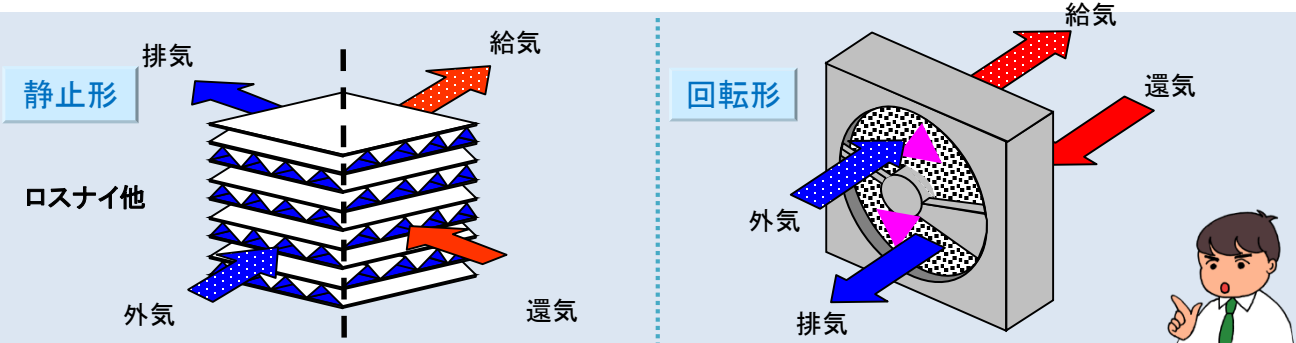
⇒新型コロナウイルスを含めウイルスは自身では増殖できません。増殖するためには生きた細胞に寄生する必要があり、**ロスナイ内部で増殖することは通常起こりえないと考えます。** 20

ポイント(5)

2017年に改正された全熱交換器に関するJIS規格の厳格化にも対応し、業界No.1の有効換気量率を達成

③全熱交換器の種類

全熱交換器には右のような形があります。



	静止形	回転形
構造・原理	<透過式直交流形>	<蓄熱・蓄湿式対向流形>
処理風量	40~25,000m ³ /h 小~大	100~63,000m ³ /h 大風量がメイン
エンタルピ交換効率	○	◎
エレメントの目詰まり	有 掃除機により清掃可能	有 清掃が困難
空気漏れガスの移行率	○	△~×
細菌移行率	○ 給・排気風路が別	△ 同じ穴を給排共用

(1) 令和2年度補正予算〈案〉概要 【環境省】

【事業名】大規模感染リスクを低減するための**高機能換気設備等の導入支援事業**

【予算案】30億円

【内 容】飲食店などの不特定多数の人が利用する施設等を対象に、密閉空間とならないよう、換気能力が高く、同時に建築物の省CO2化にも資する高機能換気設備などの導入を支援。

【補 助】・対象設備：**高機能換気設備**、空調設備等

・補助率；

①中小企業が運営する不特定多数の人が利用する業務用施設(飲食店等)は補助率2/3

②上記①以外のその他業務用施設は補助率1/2

【URL】詳細は以下をご参照ください。

<https://www.env.go.jp/guide/budget/r02/r0204-hos-gaiyo.html>

※「高機能換気設備」とは、室内の空気を換気する際に、排気する室内の空気から熱を回収し、新しく取り入れた外気に熱を移す機能を持った換気設備。夏には高温多湿の外気を冷やし除湿して取り込むことができ、冬には乾燥した冷気に熱と湿度を移して取り込むことで乾燥を防ぐことができる。換気を効率的に行うことで、感染症拡大リスクを低減しつつ、その際の冷暖房熱のロスを抑制し、省エネ・省CO2を図ることが可能。

詳細はこれから確定していくと思われませんが、換気能力が高く、同時に建築物の省CO2化促進にも貢献する、**高機能換気扇**、**および空調機**が今後ますます普及していくと思われます

(1) 令和2年度補正予算〈案〉概要 【環境省】

店舗へのロスナイ設置提案のポイント

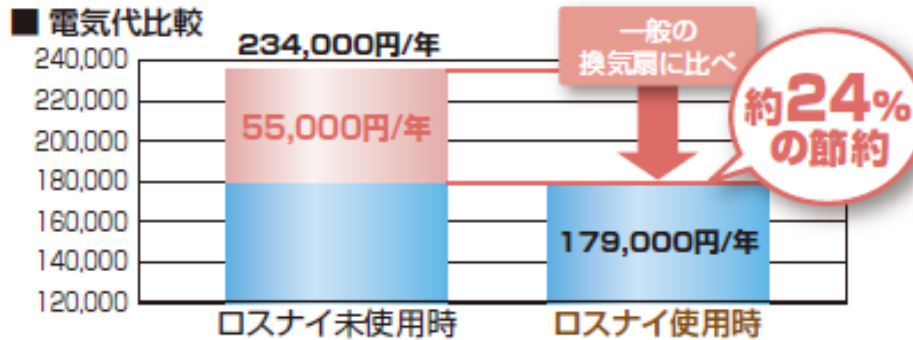
補助金活用により短期投資回収が可能(試算例)



500m³/hタイプ

価格: 310,000円※

※工事費を含まない製品希望小売価格



1台当たり電気料金を年間**約55,000円**※削減

ロスナイ購入費用は
約2年で回収

実質負担額は
約105,000円(推定)

中小企業に対する
補助率は
2/3

※当社業務用ロスナイ500m³/hタイプ1台使用時と非熱交換型換気扇の比較
冷房時3.5か月、暖房時3ヶ月、空調機成績係数3.19(夏期)、3.6(冬期) 電気料金27円/kWh(税込)にて当社試算

※使用条件により効果は変動します

(2) 令和2年度補正予算〈案〉概要（一部抜粋）【厚生労働省】

【事業名】1. 感染拡大防止策と医療提供体制の整備及び治療薬の開発
(3) マスク、消毒用エタノール等の確保など感染拡大防止策
『福祉施設における感染症拡大防止策』

【予算案】272億円

【内 容】高年齢者福祉施設における都道府県が施設等へ配布する消毒用エタノール等の一括購入、簡易陰圧装置・換気設備の設置支援、施設等の消毒、感染症予防の広報・啓発

【補 助】1. 対象設備：簡易陰圧装置・換気設備^(※1)等

2. 補助率：国2/3、都道府県1/3(4,000円/m²が上限)

⇒国と都道府県の補助を両方使うことで、無償での設備導入も可能

【URL】詳細は以下をご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/20hosei/>

※1：空調設備も対象。

※2：自治体経由で公募がかけられるため、それぞれにいくら予算が回るかは自治体ごとに判断。

詳細はこれから確定していくと思われませんが、上限未満であれば無償で換気設備を導入できますので、福祉施設で換気設備の導入が遅れている自治体等については特に有効な補助金です。

